Janan Hanktana

銀の馬車道とは



銀の馬車道(正式名称 生野鉱山寮馬車道)は、飾磨津(現在の姫路港)と生野鉱山を結ぶ約 49kmの馬車専用道路です。誕生間もない明治政府の官営事業として、お雇い外国人ジャン=フランソワ・コワニエの指導のも

と、義弟レオン・シスレーを技師長に迎え、マカダム式舗装等を はじめとする当時のヨーロッパ最新技術を用いて建設されました。

姫路市砥堀にある馬車道修築碑には「石をたたみ砂を敷き、高 低を平均し、川沢には橋を架し」と工事の過程が記されています。

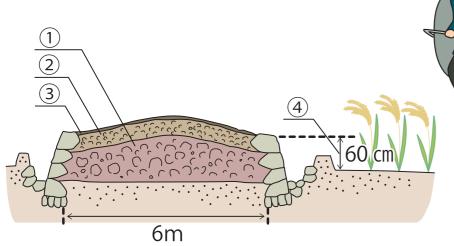
この画期的な道路は、明治 9 年(1876)に完成しました。わずか 3 年間で完成した馬車道は、当時の姫路における近代化の象徴といえます。

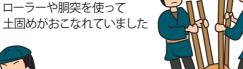
銀の馬車道は、明延鉱山、神子畑選鉱場跡、中瀬鉱山へとつづく鉱山の道とともに、平成 29 年(2017)に日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道〜資源大国日本の記憶をたどる73 kmの轍〜」に認定されました。



マカダム式舗装

スコットランド人のジョン・ラウンドン・マカダム (1756~ 1835) が考案した道路舗装方法の一つ。敷き詰めた砕石を締固め、耐久性を高めています。仕上がりが美しく、馬の足がかりが良いという特徴があります。







-)目つぶし砂利:1 cm程度の豆砂利と砂
- ② 表層部: 3 cm程度の小石、厚さ 15 ~ 20 cm ③ 路盤部: 土を取り除き、土砂混じりの粗石を
 - 敷き詰める
- ④ 水田より 60 cm高くする

現在に残る馬車道

明治 28 年(1895) に姫路から生野間に播但鉄道が開通すると運送の主体は徐々に鉄道へと移っていき、 大正 9 年(1920) に馬車道は廃止されます。その後、馬車道は市道となり現在も市民の生活道路として利用されています。

銀の馬車道発掘調査現地説明会資料

姫路市埋蔵文化財センター

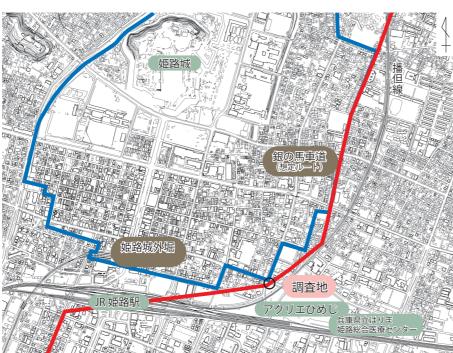
〒671-0246 姫路市四郷町坂元414番地1 TEL 079-252-3950 http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/



調査の経緯と成果

JR姫路駅の東約 800m、巽橋の交 差点の南東角に位置しています。近年 の調査・研究で判明した馬車道のルー ト上で、馬車道の実態を明らかにする 目的で行いました。

その結果、当時のヨーロッパの最新 技術であるマカダム式舗装により建 設された銀の馬車道の路面をはじめ て面的に確認することができました。



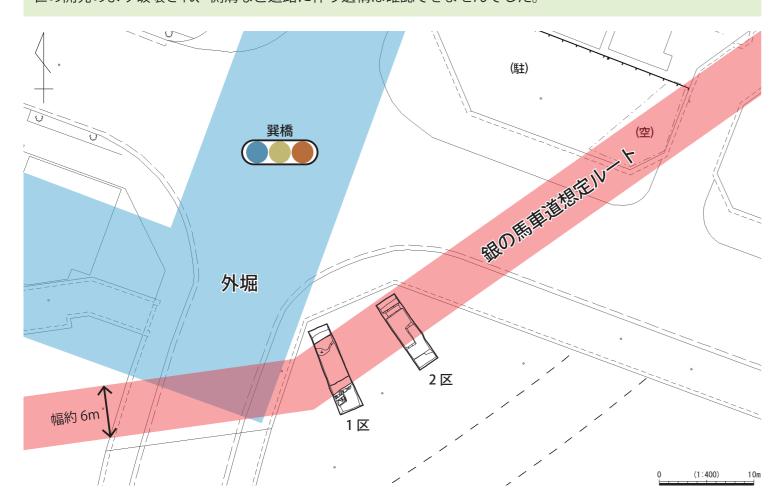


調査の概要

1区(西側幅 2m×長さ 9m)

記録によると本来の馬車道の道幅は約 6m とありますが、確認できたのはその一部で幅約 80 cm分です。確認 できた路面は、路盤部、表層部、目つぶし砂利という「マカダム式舗装」の構造を良好に残っていました。 2区(東側幅 2m×長さ 8m)

調査区の北端の幅 50 cm分で1区と同様の道路構造(マカダム式舗装)を確認しました。そのほかの部分は後 世の開発のより破壊され、側溝など道路に伴う遺構は確認できませんでした。







側溝と路面(南から)



路面詳細(左図の白線で囲んだ範囲:東から)